

令和3年(2021年)9月15日  
健康増進課 感染症対策担当  
担当者 寺師、松崎  
内線 1845、1851 直通 0952-25-7075  
E-mail: [kenkouzoushin@pref.saga.lg.jp](mailto:kenkouzoushin@pref.saga.lg.jp)

## ～梅毒は早期発見・早期治療が重要です～ 梅毒感染者が増加しています

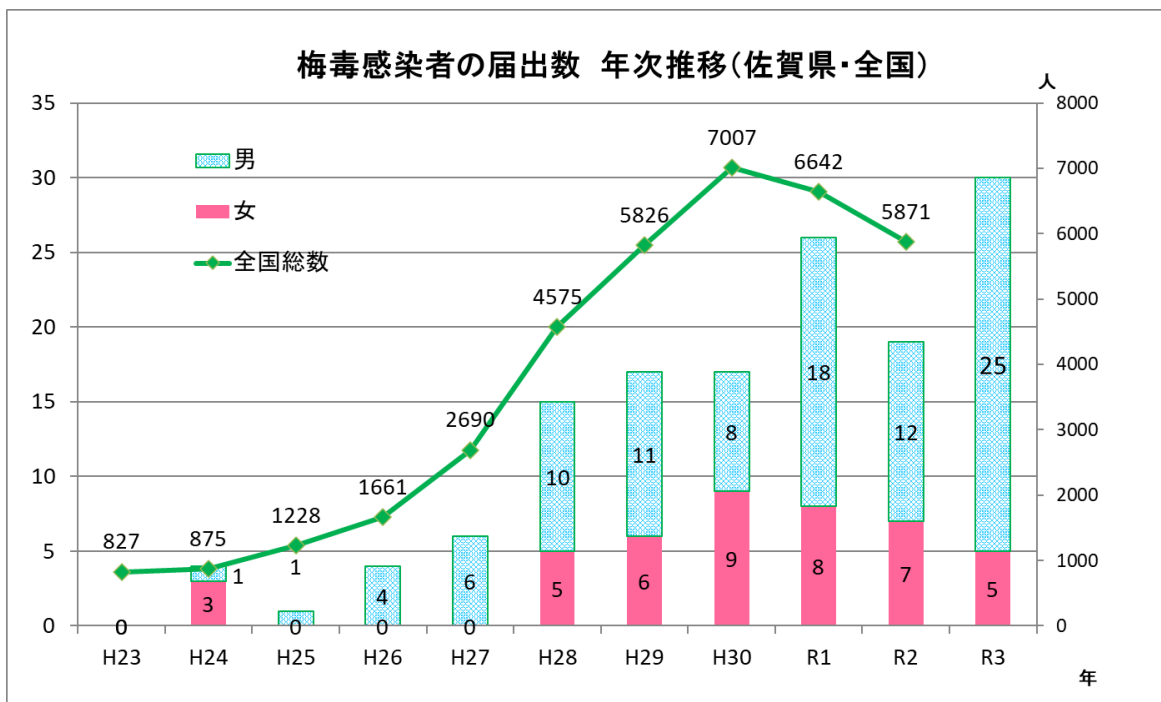
佐賀県の梅毒患者の報告数が増加しています。令和3年9月12日時点で、既に30名の報告がなされ、過去10年間で最多となっています。

梅毒は、性的な接触（他人の粘膜や皮膚と直接接触すること）などによって感染する性感染症で、感染した場合、3～6週間程度の潜伏期間を経て、様々な症状が出現します。また、その間に症状が軽くなったり消えたりする時期があるため、感染・発症したことに気付きにくい感染症です。

もし、感染していた場合には、周囲で感染の可能性がある方（パートナー等）にも検査を勧め、必要に応じて、一緒に治療することが大切です。

感染の疑いがある場合や疑わしい症状がある場合は、早めに医療機関へ受診し、早期発見・早期治療に努めましょう。

### 【参考】梅毒感染者の届出数 年次推移（佐賀県・全国）



※R3年の佐賀県の数値は9月12日時点の数値

## 《梅毒について》

### 1 梅毒とは？

梅毒は、梅毒トレポネーマという病原菌が、性的な接触（他人の粘膜や皮膚と直接接触すること）などによって体内に侵入し、全身に様々な症状が現れる感染症です。

感染が起きた部位（陰部等）にしこりや潰瘍が出来たり、リンパ節の腫れ、全身の発疹などの症状が出ますが、病気の時期により症状が異なり、時に無症状のこともあります。

早期に薬物治療をすることで完治できますが、検査や治療が遅れたり、治療せずに放置したりすると、脳や心臓に重大な合併症を引き起こすこともあります。時に無症状になりながら進行するため、治ったことを確認しないで治療をやめてしまわないようにすることが重要です。また、完治しても、感染を繰り返すことがあり、再感染の予防が必要です。

#### ◎先天梅毒について

妊婦が梅毒に感染すると、胎盤を通して胎児に感染し、死産や早産を引き起こしたり、新生児死亡や奇形など胎児に重篤な異常をきたすことがあります。

妊婦健診の初期に梅毒検査が行われますが、検査結果が陰性であっても、その後の感染予防に努めることが重要です。

### 2 梅毒の予防方法は？

- ・不特定多数の人との性的な接触を避けましょう。
- ・コンドームを正しく使用することが効果的です。ただし、コンドームで覆わない部分（皮膚や口の粘膜等）から感染する可能性があるため、100%予防できるとは過信せず、皮膚や粘膜に異常があった場合は性的な接触を控え、早めに医療機関を受診して相談しましょう。
- ・完治しても再び感染することもあるので、パートナーと一緒に検査・治療を行うことが必要です。
- ・妊娠中の方は、妊婦健診を定期的を受診し、感染予防に努めましょう。